

東電の女性モニターの方々からのご意見等を踏まえて整理し、分かりやすい資料(「福島第一原子力発電所」の現状と廃炉に向けた取り組み(案)) (参考資料1)を作成。前回評議会後、本資料を活用した説明会を順次実施・計画しているところ。

【これまでの説明会実績】

- 7月2日 大熊町自治会
- 7月7日 福島市小中学校PTA連合会
- 7月13日、14日 川内村住民説明会

【説明会でいただいた主なご意見】

- ・食品の基準などの情報も入れてほしい。
- ・この資料はどこでみることができるのか。配られただけでは見ない。
- ・学校単位での説明会、授業参観などの機会にあわせて説明会を行うといった方法も考えてほしい。
- ・子供向けの資料や漫画を活用したものなども充実されると良い。 → 2ページ参照
- ・ツイッターやフェイスブックなどでの情報発信もするべきではないか。

今後の対応

- ・本資料(参考資料1)を今評議会終了後、経産省ホームページ・東京電力ホームページに掲載予定。
- ・今後も、説明会を始め様々な機会において情報提供を行う。また、コンテンツについても継続的に追補等の改善を図っていく。

② 子どもへの情報提供等

(1)「放射線等に関する指導資料(福島県教育委員会)」への反映

- ・ 福島県教育委員会において、平成26年度に作成予定の第4版に、廃炉・汚染水対策に関する内容を追記することを、ご検討頂いている。
- ・ 8月21日、指導資料に関する検討会議が開催され、廃炉・汚染水対策チーム事務局も参加。事務局より廃炉・汚染水対策の現状及び「分かりやすい資料」(参考資料1)について説明。指導資料の内容の追記については、事務局・県教育委員会において引き続き作業する予定。

【検討会議において頂いた御意見】

- ・ 指導資料に追記できるようなコンテンツを作成してほしい。
- ・ 「分かりやすい資料」について、今後の改善に向けて、以下の意見が出された。
 - ・ 震災により原子炉等が壊れたということだけでなく、放射性物質が飛散したこと等も事実として入れるべき。
 - ・ 廃炉に伴い発生する廃棄物等の管理が課題になることも含めるべき。
 - ・ 廃炉・汚染水対策は挑戦的な事業である。今の技術でどこまでできていて、何を技術的に解決しなければならないかを分かりやすく説明すべき。

(2) いわき明星大学・東^{ひがし}之弘教授による廃炉・汚染水対策の紹介

- ・ 6月26日、福島県教育委員会が主催する「小学生理科講座」に向けた指導者研修会(県内の理数教育優秀教員(コアティーチャー)向け)において、廃炉・汚染水対策について紹介。
- ・ 8月21日、いわき明星大学による教員免許状更新講習(選択領域の一つ「環境エネルギー教育」)において、廃炉・汚染水対策について説明。

③ 地元自治体への情報提供

○ 中長期ロードマップの進捗状況の説明(月1回実施)について

【自治体からの主なご意見等】(下線は前回からの更新箇所)

- ・南相馬市: 汚染水が漏洩した場合などについては、環境にどの程度影響があるのかが明確に分かるようにして欲しい。
- ・川俣町: 資料のボリューム感が多く専門用語もあり解りにくい点もあるが、やむを得ない面もある。ただし、住民向けには、東電の資料のように、もっと分かりやすく作って欲しい。説明は、A3紙1枚程度の簡素な資料が良い。
- ・広野町: 現行どおり、A3紙の概要資料で概要とポイントを説明し、必要に応じて、詳細版の資料で、詳しく説明する方式が良い。敢えて言えば、全体の流れで今どこに位置しているのかが分かるように、これまでの動きを時系列に整理した年表のような資料があれば、なお良い。
- ・檜葉町: 専門用語を使わず、小学生にも分かるように説明して頂きたい。
- ・川内村: 説明資料については、廃炉工程中のどの当たりの作業なのかが分かると良い。
ロードマップ概要を住民に送ってもなかなか理解してもらうのは難しいので、4半期に一度分かりやすい言葉を使って住民説明会を開催してほしい。
- ・浪江町: 廃炉全体について前月からの進捗が分かるよう、前月との比較表を別途東電に作成させて説明を受けている。
放射性物質について、建屋からの放出量だけではなく、敷地境界の線量についても入れるようにすべき。
- ・葛尾村: 工程が複雑で全体像が見えないので、各行程の進捗度合いを示す表があると良い。
- ・飯舘村: 原子力の担当部署が使うような専門用語はなるべく使用しないようにすべき。また、説明を受ける人は原子力の専門家ではないので、小中学生や一般主婦の方々に理解して頂けるような説明の仕方を心がけて欲しい。また、中長期ロードマップのようなシリーズものは、前月の説明と何が変わったのかを中心に説明して頂いた方が分かりやすい。
- ・田村市: 1ページ目の廃炉の作業ステップ図については、簡単に目安となる年月を入れてはどうか。

○ 現在の取組状況

4月以降、ご説明の際に使用する資料について、

1) 全体の中の位置づけや進捗度合いが分かるように資料や説明を工夫する、

2) 専門用語をなるべく使わない。使う場合にも解説をつける、

などの改善を図るとともに、原因や影響など事象の意味合いを伝えることを意識してご説明を行っている。

※ 参考資料2「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)[7/31]のリバイス版」を参照

④ 地元住民の方々への情報提供

○ニュースレターについて

- ・第2号の「廃炉・汚染水対策ニュースレター【内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所からのお知らせ】」(参考資料3参照)においては、より現場に近い作業員の方々(凍土壁掘削工事、汚染水漏えい防止工事)から取材する等の改善を図り、本評議会終了後に経産省ホームページに掲載するとともに、ご要望のある自治体に送付。

第1号ニュースレター(参考資料4)発行後、頂いた主なご意見等

- ・(東京電力の記事の中で、「福島第一は、廃炉作業の進捗やトラブルなどが大きくニュースに取り上げられて いますが、それだけ社会から注目されていることだと思います。」と記載していることについて、)東京電力には、道義的責任があるのではないか。被災者の気持ちを考えた表現振りにすべき。
- ・(現地事務所職員の記事について、)役人はもっと早くに出勤して情報収集などに努めるべき。
- ・現場の人の苦労がわかる話が載っているのはとても良いことである。内容について、農作物の話や健康管理の話などの関係者の話が載っていると嬉しい。

今後の対応

- ・引き続き、定期的にニュースレターを発行するとともに、コンテンツの充実化・改善を行う。
- ・また、ご要望に応じて、廃炉・汚染水対策に関する住民説明会を開催するなど、きめ細やかな情報提供を行う。

⑤ 廃炉・汚染水対策をめぐる事実関係(1)

報道例① 地下水バイパス

「くみ上げ停止の井戸の水 初の海洋放出」(6/27)

【事実関係】

- ・建屋内の地下水流入量を減らすため、建屋山側の井戸で数百トンの地下水をくみあげ、一時貯留タンクに貯留後、くみ上げた地下水の水質確認を行い、法令告示濃度(※)より低い運用目標(トリチウムの場合は40分の1)を満たしていることを確認し、排水を実施。
- ・5月27日、くみ上げ井戸12箇所のうち、1箇所の井戸(No. 12)からくみ上げた地下水のトリチウム濃度が1リットルあたり1,700ベクレルと、一時貯留タンクにおける運用目標(1リットルあたり1,500ベクレル)を超えたため、一時貯留タンクに与える影響を評価するため当該井戸からの地下水くみ上げを停止し、水質の傾向監視を強化した。
- ・その後、濃度の上昇継続による一時貯留タンクへの影響がないことを確認し、6月12日よりNo. 12の井戸について地下水のくみ上げと一時貯留タンクへの移送を再開し、6月26日に再開後初めて排水を行った。
- ・なお、No. 12の井戸は、8月5日に再び運用目標を超えたため、地下水くみ上げを停止。傾向監視を行った上で、8月22日より、くみ上げと一時貯留タンクへの移送を再開。

(※)法定告示濃度

その濃度の水を1年間毎日2リットル飲み続けた場合に、被ばく量が1ミリシーベルトとなる濃度

⑤ 廃炉・汚染水対策をめぐる事実関係(2)

報道例② 「汚染水タンクに中古品」(7/23)

【事実関係】

- ・福島第一では、震災以降、発生する汚染水を遅滞なく貯留するために、緊急性、経済性、納期等を勘案してタンクの設置を進めており、漏えいへの対応としては溶接型タンクが望ましいものの、工期が短いことから組み立て式のフランジ型タンクについても設置を進めてきた。
- ・フランジ型タンクについては、フランジ部の止水性が重要であるため、再利用品のタンクについても、フランジ間のパッキン、ボルト等の部品は新品を使用している。
- ・なお、フランジ型タンク全基について、タンク設置時に、水張り試験などを実施し、漏えいがないことを確認している。

報道例③ サブドレン

「汚染水 浄化し放出案」(8/7)

【事実関係】

- ・サブドレンは、汚染源に水を「近づけない」対策のひとつとして、「建屋付近への地下水の流入量を抑制するため、建屋近傍の井戸により地下水をくみ上げる」もの。これにより、建屋に流入する地下水の量が減り、汚染水の増加が抑制できる。また、別途建設中の海側遮水壁により地下水の港湾内への直接流出を抑えることで、港湾内の放射性濃度低減の加速にも効果があると考えている。
- ・建屋内の汚染水が建屋外に流出することがないように、建屋内の水位は建屋周辺の地下水位よりも低く維持している。
- ・サブドレンからくみ上げる地下水には、事故時の水素爆発の影響等を受けて、放射性物質が含まれているが、建屋内の汚染水に比べて桁違いに低い濃度。くみ上げた地下水は、地下水バイパスの運用目標を下回るまで浄化し、関係者の理解を得た上で、港湾内に放出することを検討している。

⑤ 廃炉・汚染水対策をめぐる事実関係(3)

報道例④ 「津波対策後回し 汚染水海洋流出を懸念 凍土壁やALPS 目先の対応優先」(8/17)

【事実関係】

- ・東京電力は、「東京電力(株)福島第一原子力発電所における廃炉・汚染水問題に対する追加対策」(平成25年12月20日 原子力災害対策本部決定)において盛り込まれた大規模津波対策として、建屋開口部の閉鎖などの防水性向上対策を実施しており、今年度末の完了を目指し進めているところ。

報道例⑤ 「汚染水 行き詰まる対策」(8/8)

【事実関係】

- ・汚染水問題については、「東京電力(株)福島第一原子力発電所における廃炉・汚染水問題に対する追加対策」(昨年12月20日 原子力災害対策本部決定)に基づき、①汚染源を「取り除く」、②汚染源に水を「近づけない」、③汚染水を「漏らさない」という3つの基本方針の下、重層的に対策を進めている。
- ・汚染源を「取り除く」対策について、多核種除去設備(ALPS)が本年6月下旬以降、計画的な停止を除き、3系統全てで運転しており、今秋の同設備の増設や高性能多核種除去設備の稼働を目指している。
- ・汚染源に「近づけない」対策については、地下水バイパスを本年5月より運用を開始し、凍土壁についても本年6月に本格着工し、年度内の凍結開始に向けて作業を進めている。また、サブドレンの復旧・新設工事も今秋完了する予定であり、建屋周辺の敷地舗装についても順次実施している。
- ・汚染水を「漏らさない」対策については、海側における水ガラスによる地盤改良が本年3月末に完了し、さらに、海側遮水壁工事も進めている。

主な汚染水対策の進捗状況

	対策	進捗	
「取り除く」	多核種除去設備による汚染水の浄化	完了・運用中	3系列で運転中 約12万トンの処理完了(H26. 8. 19)
	増設の多核種除去設備による汚染水浄化	着手済	9月中旬より汚染水浄化試験を実施予定
	より高性能な多核種除去設備による汚染水浄化	着手済	10月より汚染水浄化試験を実施予定
「近づけない」	地下水バイパスの運用	完了・運用中	5月下旬よりくみ上げを開始
	サブドレインの運用	着手済	くみ上げ後の地下水の浄化試験を実施中、今後漁協等に説明
	陸側遮水壁の設置	着手済	6月より工事着工、今年度末に凍結開始予定
	地下水流入抑制のための敷地舗装	着手済	本年1月より順次工事に着手 今年度末までの概成予定
「漏らさない」	タンク堰のかさ上げ、二重化	完了・運用中	7月中旬に完了
	水ガラスによる地盤改良	完了・運用中	3月に完了
	海側遮水壁の設置	着手済	9割以上の工事が進捗
	タンクの増設	着手済	計画より2年前倒し、年度内に80万トン整備予定

【基本的な考え方】

透明かつ迅速に行うことはもとより、

1. 事象の概要だけでなく、原因や影響、全体の廃炉作業での位置づけなど、事象の意味合いをご理解頂ける形で
2. 問題の程度・度合いについて、客観的な指標などと比較・評価いただける形で
3. 起きた事象の報告だけでなく、それに対する対処対応策も併せて
4. 文字だけでなく、イラストや画像等を活用した分かりやすい形で
5. ホームページだけでなく、インターネットを利用されない方々にも身近なメディアを通じて地元の皆さまへの情報提供・コミュニケーションを行うよう努めていきます。

【正確な情報の積極的な発信】

誤解を招く報道等については、正確な情報を積極的に周知していきます。